

京まち工房



SPRING
情報交流誌

no.

18

(財)京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター

パートナーシップで進めるまちづくり



春日住民福祉協議会

特定非営利活動法人みどりのまちづくり研究所

株式会社フラットエージェンシー

京都履脱 御堂ヶ下・大橋町内会

京都西陣町家スタジオ

サン・ユニット・カンパニー

新時代のまちづくり・城巽五彩の会

京都市総合企画局情報化推進室情報政策課

株式会社資産活用倶楽部 京都

NPO法人 古材バンクの会

J.C.A (ジャパニーズ・クロス・アレンジメント)

特定非営利活動法人 祇園町南側地区まちづくり協議会

特定非営利活動法人 アートテックまちなみ協議会

京都市建設局水と緑環境部河川



四條京町家「町家塾」

建築士事務所協会洛中支部 町家新活用部会

朱雀ふれあい街づくり協議会

三条通を考えよう会(中京堀川東界わい連絡会)

京の三条まちづくり協議会

梅津まちづくり委員会

別所学校存続委員会/別所井戸端実行委員会

京都市環境局環境企画部地球環境政策課 循環型社会推進課

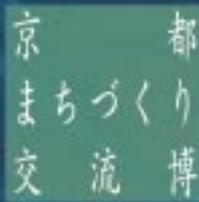
京のアジェンダ21フォーラム

京都市ごみ減量推進会議

姉小路界隈を考える会

京都市のネットワーク

「出会い」「交流」から広がる パートナーシップによるまちづくり



街の色研究会・京都

社団法人京都府建築士会

関西木造住文化研究会

西陣大黒町まちづくり協議会

京都建築青年経済協議会/関西電力株式会社京都支店

株式会社ゼロ・コーポレーション

京都リサーチパーク株式会社

株式会社彩巧社

京・まち・ねっと

地域コミュニティひろば整備プロジェクト

京極住民福祉連合会まちづくり委員会



京都府建築工業協同組合

歩いて暮らせる街づくり推進会議

四條大宮まちづくり協議会

一条大將軍にざわいづくり会議

修徳自治連合会まちづくり委員会

学生市民グループH1!地-図(はい!ち-ず)

壬生地域まちづくり協議会/西新通錦会商店街振興組合

NPO法人京滋マンション管理対策協議会

西陣まちづくり委員会

織成宿所保存維持会

京都ものづくり塾

都市居住推進研究会

京町家再生研究会

本能まちづくり委員会

大阪ガスグループ(京滋事業本部、近畿園部、ホームプロ)

有限会社京都旅企画

株式会社八清(ハチセ)

アルバック 株式会社地域計画建築研究所

京都市産業観光局観光部観光企画課

京都市総合企画局パートナーシップ推進室

SCCJ(日本サステイナブル・コミュニティ・センター)

京都市教育委員会 地域教育専門主事室

人づくり21世紀委員会

京町家作事組

東山・まち・みらい塾

京都商工会議所

清水建設株式会社京都営業所

川とまちのフォーラム・京都

京都市産業観光局商工部商業振興課



「第1回 京都まちづくり交流博」(平成14年2月17日、於：キャンパスプラザ京都)では、67組の皆さんからお寄せいただいたパネル展示やパネルディスカッション等を通じ、新たな「出会い」や「交流」が生まれました。

そして、「想い」を持つ一人一人が主人公となる「パートナーシップによるまちづくり」の、確かな広がり可能性を感じさせるものとなりました。

(ご参加、ご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。)

(「交流博」についての詳細は、6面でご紹介しております。)

あなたのまちづくり拝見

新時代のまちづくり じょうそんごさい 城巽五彩の会

住民主体のまちづくりを様々な視点から紹介するこのコーナー。今回は、中京区城巽学区で、「職」「住」「遊」「学」「交」の5つの彩りのあるまちづくりを目指し、地域の企業をはじめ、様々な方々とのパートナーシップを進める「城巽五彩の会」の取組を紹介します。



二条城の巽たつみに位置する「城巽学区」

概ね北は二条通、南は三条通、西は堀川通、東は釜座通に囲まれた城巽学区は、その名のとおり、二条城の巽(東南の方角)に位置しています。

平安時代には公家の邸宅や仮皇居として賑わいをみせ、今でも数々の史跡や名所が存在するなど、公家社会の政治と文化の一翼を担った地域といえるでしょう。こうしたことから、大きなホテルも2つ立地しています。

このあたりは、かつて流れていた堀川の水を活かし、染色産業がさかんな地域でもありましたが、近年、染織産業の低迷や、それに伴うマンションの増加など、以前に比べ、活気が失われつつあり、コミュニティの希薄化が課題になっています。

できることから、楽しく、より多くの人と

このような状況の中、平成12年11月に行われた「まちなかを歩く日」に参加した城巽学区民が中心となり、「自分たちのまちのことは自分たちで考えよう」と、まちについて語り合う会が初めてもたれたのは13年1月のことでした。それ以降、数回にわたる会合の中で、「自分の住んでいるまちなかに、知らないことが沢山ある」「知らない人もたくさんいる」「せめて誰もが挨拶の交わせるようなまちでありたい」「やっぱり城巽学区に住み続けたい、住み継いでいきたい」などの思いが語られるうちに、「何か自分たちでできることがあるのではないか」「住みやすく、訪れて楽しい城巽にするために、できることから、楽しく、より多くの人に参加していただきながら取り組んでいこう」「そのためには組織としてきちんと活動しよう」ということが共有され、まちについて考える組織づくりに向けた本格的な活動が開始されました。

「城巽五彩の会」の発足

幾度の会合を重ね、平成13年9月、城巽学区のまちづくりを考える組織「城巽五彩の会」が、城巽自治連合会の下部組織として発足されました。「五彩」には「ものづくりや商いを通じた地域繁栄のまちづくり」「安心な生活と住

んで楽しいまちづくり」「訪れてみたくなるまちづくり」「伝統を活かした文化創造のまちづくり」「多様な交流と連帯が生まれるまちづくり」の5つの彩りのあるまちづくりを目指そうという会員の思いが込められています。

会員は約30名。「これまでの自治連合会の活動は、どうしても同じ顔ぶれになりがち。より多くの人に参加できるようにしたい」という思いから、広く呼び掛けを行いました。その結果、地域のことを知りたいと恐る恐る参加したマンションに住む若夫婦や、まちづくりに興味のある学生、地域の西側に構える2つのホテルも1メンバーとして、また、年齢も30代から70代の方々が参加するなど、この「城巽五彩の会」は多彩なメンバーで構成されています。

「五彩の茶会」と「城巽学区の歴史マップ」

発足後、当面の取組として、若者の地域活動への参加を促進することを目的としたイベントの開催と、地域資源の再発見を目的とした城巽学区の歴史マップづくりを行いました。その実現に向けては、何度も会合が開かれました。

イベントについては、平成13年11月に開催された「まちなかを歩く日」に城巽学区として参加し、17日、18日の2日間、「五彩の茶会」と題して、御池通のオープンカフェをはじめ、京都国際ホテル、京都全日空ホテル、高松神明神社、幾世稲荷の5つの会場で茶会を開きました。また、茶会と併せて、歴史を学ぶ講演会や、家元による日本舞踊、懐かしい写真展、手づくり市、子どもたちのダンスの披露など、様々なイベントが行われ、世代を越えた多くの方々の交流が図られました。



道の茶～御池通シンボルロードのにぎわい～におけるステージの様子

また、マップづくりに関しては、学区内の歴史資源の発掘や文献の調査などを行い、11月、「城巽学区の歴史マップ」が完成しました。学区のふれあいまつり「城巽まつり」や「五彩の茶会」の会場で展示・配付するとともに、全戸に配布し、学区の方々の方々のまちの資源の再発見に役立てていただくと同時に、「城巽五彩の会」を多くの人に知っていただく活動となりました。



稲荷の茶 - お稲荷さんにちなんだ様子

様々な人々の知恵と力の結集

これらの活動は、自治連合会の役員、主婦、マンション住民、印刷屋さん、工務店さん、豆腐屋さん、神社、ホテル、他学区のPTA役員等、ここに書ききれないくらい様々な方々の知恵と力が結集されてできた取組で、まさに「パートナーシップで進められたまちづくり」と

言えます。特に、これまでは、ホテルなどの大きな企業は、協賛金をいただく相手ではなかったのですが、「城巽五彩の会」の取組においては、会の1メンバーとして参加したことが、多彩な取組につながりました。「ホテルが持つ技術やノウハウがあったから、オープンカフェも盛り上がりを見せました」という地域の方の声や、「地域の人にしか分からない情報や考えもつかない数々のアイデアが、私たちの視野を広げてくれました」というホテルの方の声にもあるように、互いに得られたものは大きく、今後もパートナーとして、それぞれの活動にも活かすことができると、大きな期待が寄せられています。これらの活動は、準備段階から当日、そして、終了後も、様々な人に出会い、人の輪を広げる交流の場として、また「城巽五彩の会」の出発活動として、大きな役割を果たしたものになりました。終了後の反省会では、今後も、地域のより多くの方々に「城巽五彩の会」を知っていただき、活動のモットーでもある「楽しく、できることから、より多くの人と」を更に充実していくことが確かめられました。

* * *

「より多くの人との交流から育まれる力の結集が、城巽のまちに広がり、京都の城巽、日本の城巽になれば…」と夢を語る、会員の皆さん。より活気ある城巽のまちをつくる取組の一つとして、今後の活動が期待されます。



新時代のまちづくり・
城巽五彩の会
会長
坂本美江子さん

ふだん見慣れた私たちのまちの中に、新しい空気を送り込みたい。

地域の財源を大切にしながら、これまで蓄積してきた、知恵・経験・技術などを惜しまずに出し合い、交ぜあって、新たな人の交流ができ「まちづくり」へと発展していくのではないかと思います。

次代を担う子供たちに、このまちでの思い出をたくさん持って大きくなってほしいし、大人たちは、そういう機会を生み出せるような「創造あるまちづくり」をしたいと考えています。



城巽自治連合会
会長
新時代のまちづくり・
城巽五彩の会
顧問
宮崎健二さん

城巽まちづくり委員会「五彩の会」が発会するまでに、約1年かかりました。発会してみると、色々な人が城巽のまちに住んで居られる事がわかってきました。特に新住民といわれるマンションの居住者の方々に有能で多彩な方が居られて積極的且つ行動的で発想も大胆です。昨年のイベントでも御池通でのオープンカフェやお稲荷さんでのお茶と油揚げ等、大変な人気でした。

新旧住民が共に私たちの住むまちを楽しく暮らしやすいまちにする為、話し合い、協力し合おうと云っています。

まちなかを歩く日

まちなかの各地で多彩なイベントを展開することにより、地域住民をはじめ多くの市民や観光客に歩いて京都のまちなかに触れていただき、まちなかを歩くことの楽しさとまちづくりの効果を明らかにすることを目的に、「歩いて暮らせる街づくり推進会議」が平成12年度から実施。

京のまちの今昔物語

撮影場所：

七条大宮の交差点を北側から撮影

(協力者：

大菅 直さん、白木 正俊さん)

この付近は、当時、運送関係の会社が多くありました。写真に写っている馬車は、京都駅との間を荷物を運んでいる運送会社の馬車だと思われます。



昭和10年以前



平成13年

「京のまちの今昔物語」では、昔の写真から、現在の京都について考えることができればと思います。皆さんのお宅のアルバムに、かつての京都をしのぶ古い写真がありましたら、是非お貸しください。

お知恵拝借～

舞鶴市 「八島おかみさん会」のまちづくり

今回は、京都府の北部、日本海に面した人口9万4千人のまち、舞鶴市の八島商店街の女性によってつくられた「八島おかみさん会」からお知恵を拝借します。

会の代表の伊庭節子さんにお話を伺いました。



まちの情報が満載のタウンガイド

「八島おかみさん会」の発足

15～16年前から大型店が進出し、元は舞鶴市の中心的な商店街であった八島商店街も衰退の危機にまわれまわりました。平成3年3月、商店街を元気にしようと、浅草で活動する商店の女性の会である「浅草おかみさん会」の方を招いて講演会を開催しました。

「家の奥で不平不満を言っている『奥さん』ではなく、知識が豊富で自分で判断できる『おかみさん』になりましょう」という話に共感した八島商店街の女性たちは、その翌日には、「八島おかみさん会」を結成し、現在、20名の会員が活発な活動を展開しています。

まちの地図づくりやおみやげ品の開発に取り組む

「以前からよく、商店街に観光客の方が立ち寄って、おもしろい観光地はないかとか、お魚がおいしいところはないのか、尋ねられることがあったのですが、それに答えられないことにもどかしさを感じていました」と伊庭節子さんは振り返ります。会ができてから



タウンガイドづくりの会議の様子
(左から2人目が会長の伊庭さん)



歴史勉強会の様子

は、みんなでまちを歩いたり、地元の小学校の元校長を講師に歴史勉強会をして、タウンガイドをつくりました。また、観光客の「舞鶴らしいおみやげはないの」という問いかけから、自分たちでおみやげ品の開発にも取り組みました。

「活動を続ける中で、舞鶴が好きになりました。住んでいる私たちが舞鶴を楽しくしなければ誰がしてくれるの、と思っています」と伊庭さんは話されます。

自分と社会をつなぐ窓口となる会の存在

「月に1回以上のペースで開いている会合では、生活の中で感じていることなどのよもやま話をすることが多くあります。高齢者介護のことなどを話して情報交換をするだけでも、自分だけじゃないんだと安心できるという声を聞きます」と伊庭さん。また、小さい商店には、大型店にはない、買い物と会話をしにこられる方がたくさんおられます。その時に出た話などを基に、勉強会やイベントの企画が出てくることが多いそうです。

「活動を通じて世の中のことが見

えてきました。会は、自分と社会をつなぐ窓口になっていると感じています。会合に来られていない会員の方にも自分たちが見聞きしていることを伝えたい」と、月1回発行し続けておられる会報は、平成14年3月で124号を数えました。

広がるネットワーク

平成6年に、女性の有志からの「女性の地位向上を目指し、女性団体の連携をつくろう」という呼び掛けを受け、農協やボランティア等の女性団体が参加して「まいづる女性連絡協議会」(平成14年3月末で解消。その後の活動は、平成13年5月に生まれた「舞鶴市女性センターネットワークの会」に継承される)を設立し、伊庭さんがこの会の代表を務めておられます。この会には、38団体が参加し、延べ1万人の会員がおられます。これらの会は、個々の活動を尊重しつつ、横の連携を図ることを目的に活動しており、「八島おかみさん会」では、自分たちの活動に機軸を置きながら、他団体との情報交流などの連携を図っています。

* * *

「自分たちの知りたいことからやってみよう」「まず、住んでいる自分たちが舞鶴を好きになろう」と活動する「八島おかみさん会」の取組が、舞鶴全体の魅力をも高めているように感じました。会の活動の充実にもなって、舞鶴がより魅力的なまちになっていくことが楽しみです。

京町家の保全・再生の事例

～人との出会いが紡ぎだす空間～

西陣・わらやちょう町家塾「ケメコはうす」

上京区藁屋町



外構をはじめ、屋内も改修



二条城の北、瓦屋根の多く見られる藁屋町に、「ケメコはうす」はある。当主の澤田好宏さんの生家であり、少年時代を過ごした場所だ。2002年春、久しぶりに我家へ帰り住む。

築70年以上の2階建、約20坪の仕舞屋。隣とは棟続きである。家業は組紐業だった。家族で暮らした我家の思い出は、学生時代まで。学生の頃からフォークシンガーとして活躍し、家に帰らない日も多かった。今は亡き父が、帰らぬ息子の愚痴をこぼす。そんな家を出て、東京、海外、北海道・礼文島、大阪、各地を転々としながら、それぞれに居場所を見つけていた。近所で「不良息子」と呼ばれていたことは後で知った。

その父も亡くなり、生家を受け継いだ。しばらくは母が一人で住んでいたが、その母も姉夫婦の家に同居する。空家になった生家は、4年の歳月を経て、傷みが激しくなっていた。

放火などの犯罪が起こりはしないか？空家のままでは不用心だ。このまま放っておくわけにはいかない。壊して駐車場にするか？それとも、とりあえず直して何かを使うか？「そのままいけば、壊していた」という。町家倶楽部との出会いが大きな転機となった。

町家倶楽部のメンバーが主催する町家見学ツアーに参加したときのことだった。「すごくいい！」町家を探している参加者達から口々に聞えてきた。自分の目にはどう見ても、小汚い普通の長屋にしか見えない。「えっ、こんなところに住みたいの？ほんとに？」目から鱗の出来事だった。「実は、自分も所有している」。町家倶楽部のメンバーに打ち明けた。早速メンバーが訪れ、口々に言う。「これはいい」「でも、かなり汚いし」「まだましな方やで」「ほんま？」そう言われる内に、その気になってきた。思い切って、直すことにした。まだ、使い道は決めていなかった。

工事は、設計・工務の伊藤さんに頼んだ。彼とは高校の同級生だった。まず、改修のイメージを自分の中で固めた。それを、一緒に協働作業してくれる彼に伝えて、

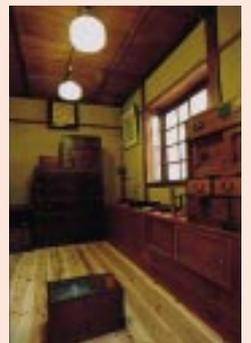
同じ土俵に立ってもらう。一緒にシンポジウムやセミナー、現場に行って、たくさん話し合った。「木を生かしたい。なるべくそのままに直したい」。工事中は、彼が毎日監理に来てくれる。安心して任せた。専門家の智恵に期待した。

これから改修にかかる生家の整理をしていると、自然と家族の思い出が蘇った。工事が始まると、生まれ育った我家がみるみる変わっていく。驚きを隠せなかった。でも、おもしろい。できるだけこの過程を見ていたい。工事現場に通えるだけ通った。昔から知っている近所の人も、毎日の様にのぞきに来てくれた。その様子を日記に綴り、メールマガジンでみんなに読んでもらう。多くの人から共鳴の声が上がった。我家へ帰る決心がつく。この何十年間、転々としてきた。だが、京都に我家があるというのは、ずっと心にあった。そして、ついにここに帰ってきた。生家は、いつの間にか「ケメコはうす」と命名された。ケメコという名は、関わったバンド時代のヒットソングの名前。これまでは恥ずかしくて隠そうとしていた。多くの人との出会いの中で、財産であることに気づいた。

2001年の暮れ近く、約1ヶ月の改修工事が完了した。年明けの1月には、完成記念イベントを開いた。民芸絵画の作品展。絵師の市瀬さんの手によって表の暖簾に描かれた、2匹の招き猫が手招きして迎える。中では火鉢を囲みながらの談笑が絶えない。

イベントが終わった今も、多くの人々が訪れる。住居兼事務所。これからは、たくさんの方が集える空間にしていきたい。みんなに助けられ、もみくちやにされて、この家ができた。何かが変わるし、何かが始まりそうだ。多くの出会いがあり、新しい付き合いが始まる。「ケメコはうすには、独特の時間が流れている。なぜか人が優しくなるんです」。澤田さんと「ケメコはうす」とが交わった、独特の世界がここにはある。

片付けをしている時に、大事に新聞紙でくるんであった四角い振り子時計を見つけた。「ケメコはうす」の玄関で、今日も元気に動いている。この家で、これまで刻まれた家族の歴史に、また新しい時を刻む。



町家倶楽部：町家という空間を必要とする人、町と町家に魅力を感じる人と町の縁結びをする仲人として、京町家を工房、住居等に活用したい人達と家主さんをつなぐ活動を行っている市民活動団体。(ニュースレター8号で紹介)

左上と右下の写真2点は、宮本進写真事務所撮影

京都のまちづくりが大集合！

～「第1回 京都まちづくり交流博」を開催しました～

センターでは、この度、パートナーシップのまちづくりを推進する契機となり、そして様々な人や情報が交流し、新しい出会いの場となることを目指して「第1回 京都まちづくり交流博」を開催しました。
(平成14年2月17日、於：キャンパスプラザ京都)

基調講演

「パートナーシップのまちづくりとは」

京都府立大学 助教授 宗田好史氏

平成13年10月9日に開催した「景観・まちづくりシンポジウム」(ニュースレター17号参照)では、「スポーツ」をテーマに取り上げ、「自分で目標を定めること」「楽しいこと」「強制されないこと」という、個人の動機に着目したお話がありました。基調講演ではそれを受け、「音楽」をテーマに、個人の思いや動機等を持ち寄り、まちづくりへつなげていくことを話されました。

「オーケストラは、各パートそれぞれが独立したプロの奏者で構成されており、それらが調和したハーモニーになった時、美しく感動的な音楽が生み出されます。まちづくりもオーケストラと同様、参加する人の思いや個性、まちの資源が調和することで、魅力的なまちづくりとなるのでしょ」というお話がありました。

「自立した個性が調和すること」「楽しみながらも真剣に取り組むこと」「まちづくりの担い手(演奏者)により個性が現れること」等、まちづくりはオーケストラと共通する部分が多い、とご指摘いただきました。

「様々な個性豊かな人たちと一緒に取り組む、また情報を交換したり交流を重ねる『ハーモニー』を生み出すことで、京都のまちづくりがより魅力的になるでしょう」とエールをいただきました。



基調講演の様子

まちづくり発信

「まちづくり発信」では、京都市内でまちづくりに取り組まれている67組の方々から、それぞれの活動の様子について、パネルで発信していただきました。また各パネ

ルの前では、発信者自らがパネルの前に立ち、来場者に説明するなど様々な交流が生まれていました。「まちづくり発信」には、約500名の方が来られました。



「まちづくり発信」のパネルの前では様々な交流が展開されました

まちづくりパネルディスカッション

「まちづくりパネルディスカッション」は、まちづくりに関する3つの分科会で構成し、「まちづくり発信」で発信された方をパネラーにお迎えして、意見交換をしました。

「響きあう、まちづくりへの想い」

地域の資源(人・もの等)を活用し、個性的な取組を展開されている方々から、その活動についてご報告をいただきました。立場や取組方法は異なっても、暮らしや人、ものを大切にする一人一人の想いの部分では共通しています。こうした取組をコミュニティや環境、経済等と連携して広く捉え、ものづくり都市としての京都の価値を生かし、人づくり、まちづくり、ものづくり、仕事づくりを進めていくために「知識」「意識」を変えていくことが大切だ、と語られました。また、フロアー



分科会Iの様子

の方を含めた、分科会の参加者で、まちづくりに関するメーリングリストをつくるのが提案されました。

コーディネーター (敬称略)

谷口知弘 (京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科 助手)

パネラー (50音順)

大西賢市 (梅津自治会連合会)

大野恭介 (京都市リサーチパーク株式会社)

小泉光太郎 (四条京町家「町家塾」)

坂本美江子 (新時代のまちづくり・城巽五彩の会)

滋野浩毅 (京都ものづくり塾)

能村 聡 (京のアジェンダ21フォーラム)

「ともに拓く、企業活動とまちづくり」

企業活動とまちづくりについて、これまで取組を展開されている方々をパネラーにお迎えし、それぞれの取組や今後の展開等について、活発な意見交換が行われました。

パネラーを取り囲むように座るフロアーの方からも積極的な参加が得られ、様々な立場から「企業活動とまちづくり」についての考え、アイデアを出し合いました。

まちづくりと企業活動の接点は「地域の個性を活用し、高めること」「地域の活性化に寄与すること」であり、「両者の連携は継続的なまちづくりをする上で必要となる」ということを共有しました。



分科会Ⅱの様子

コーディネーター (敬称略)

宗田好史 (京都府立大学人間環境学部環境デザイン学科 助教授)

パネラー (50音順)

隠塚 功 (特定非営利活動法人アートテックまちなみ協議会)

西嶋直和 (本能まちづくり委員会)

西村孝平 (株式会社八清(ハチセ))

「つなげよう、まちづくりの情報」

まちづくり活動において大切な「情報の受発信・交流」において先進的な取組を展開されている方々をお迎えし、「情報は発信だけでなく、受信することが大切。しかし、



分科会Ⅲの様子

受信の方法や受信した意見への回答等にはまだまだ課題がある」「一番のマルチメディアは人間。その人間の出番をつくる道具としてITを使うことに意味がある」「効率の追求のみを行うのではなく、いつでも繋がっている安心を得る道具としてITは有効」等について、相互に共有しました。

コーディネーター (敬称略)

奈良磐雄 (京都造形芸術大学芸術学部情報デザイン学科 教授)

パネラー (50音順)

浅野令子 (SCCJ(日本サステナブル・コミュニティ・センター))

原田 完 (壬生地域まちづくり協議会西新道錦会商店街振興組合)
村木博隆 (京都市総合企画局情報化推進室情報政策課)

主 催:(財)京都市景観・まちづくりセンター

後 援:京都市/京都新聞社

協賛企業:大阪ガス株式会社/株式会社大林組/オムロン株式会社/関西電力株式会社京都支店/京都高島屋/社団法人京都府建設業協会/社団法人京都府建設業協会京都支部/清水建設株式会社京都営業所/株式会社ゼロ・コーポレーション/株式会社テラノ建築設計事務所/株式会社フラットエージェンシー(50音順)

新刊情報

『第1回 京都まちづくり交流博』.....1,000円

「第1回 京都まちづくり交流博」で情報発信されたパネルを、1冊の冊子にまとめました。京都でまちづくりの活動に取り組む67組の参加者の活動の様子がわかります。

入手方法

当センターで販売しています。

郵送希望の場合は、現金書留で以下の3点を当センターまで送付してください。

代金(1,000円) 郵便切手(390円分/冊) あて先を明記したもの

なお、当センターで取り扱っている報告集や記録集について、ホームページでも紹介していますので、ご覧ください。

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kyoto-ws/>



第1回 京都まちづくり交流博

地域まちづくりセミナー

「地域まちづくりセミナー」は、地域まちづくりの契機になることを目的に開催して、今年度で4年度目を迎えます。今年度からは、まちづくりの意義や方法について学ぶこれまでのセミナー「従来版」に加え、まちづくりの具体的手法を学ぶセミナー「ステップアップ版」も開催しています。今年度も、多くの方々の参加を得て、新たなまちづくりの展開に向けた活発な議論が行われています。



従来版 あなたのまちのまちづくり

～誇りを持ち、安心して生き生きと暮らし続けるために～

今年度は、都心部を中心に、まちづくりの気運の高まりつつある学区に呼び掛けを行い、6学区35名の方々のご参加を得て、2月7日から3月20日までの期間に連続4回のセミナーを開催しました。これまでと同様、まちづくりの専門家にもボランティアとして御協力いただきながら、様々なまちづくりの実例からまちづくりの意義や方法を学ぶとともに、学区ごとに、まちの魅力や課題について、「人」「もの」「こと」などの様々な視点から振り返り、まちの将来について検討しました。それぞれの学区の特色に沿った熱心な議論が展開されました。

最終回には、議論の内容を発表し、共有しました。



ステップアップ版 情報のいろは

～広がる、つながる、伝わるまちづくり～

このセミナーは、まちづくり活動のプロセスにおいて重要になる「情報の共有、発信、交流」をテーマに行うセミナーです。2月14日から3月14日までの期間に連続3回開催しました。CMプランナーの池田定博さんをお招きし、自分たちが取り組んでいる活動の内容や思いを、正確に、そして、有効に伝える方法等について、事例や実践を通じて様々な角度から教えていただきました。このセミナーで学んだことを地域のまちづくり活動にご活用いただけることを期待しています。



平成13年度賛助会員 (平成14年2月末現在、五十音順)

[個人]

秋山 智則	犬伏 真	岡本 晋	川島 三郎	炭崎 勉	栃木市立栃木西中学校3年	野原 康	藤本 春治	山本 一馬
浅田 茂治	今村 寿子	奥 美里	北里 敏明	高木 勝英	中川 慶子	橋本 清勇	平家 直美	山本 七重
粟津 六男	岩本 文夫	奥山 脩二	木村 茂和	高木 伸人	成田 和嗣	蓮田 攻	星川 茂一	吉田真由美
池田 敏彦	上田 修三	尾関 亘	木村 寿夫	武居 桂	西 晴行	長谷川直浩	正木 敦士	淀野 実
石田 達	植村 博之	小山 選一	黒木 省二	竹山 清明	西川 隆善	長谷川梅太郎	松田 彰	若山 喜正
井手 正己	宇高 史昭	糟谷 範子	佐竹 和男	田中 治次	西川 久壽男	長谷川忠夫	松村 光洋	
糸井 恒夫	大森 憲	桂 豊	塩谷 孝雄	田村 佳英	西川 壽磨	長谷川輝夫	馬屋原 宏	
稲石 勝之	大森 實	桂川 洋平	島崎 耕一	寺田 恵子	西嶋 直和	服部 俊幸	南 寛	
稲波 良幸	岡崎 篤行	上林 研二	杉浦 伸一	寺田 敏紀	西田 祐司	林 建志	山口 勝広	
稲本 浩一	岡崎 和夫	川口 東嶺	杉山 義三	寺田 史子	西村 隆	人見 米一	山口 翔	
	岡村 虎夫	川越 柊子	鈴木 茂雄	寺本 健三	野嶋 久暉	福本 真俊	山本 一宏	

[団体]

アジア航測株式会社京都支店	要建設株式会社	株式会社地域計画建築研究所	西日本電信電話株式会社京都支店
NPO法人京滋マンション管理対策協議会	株式会社 オーセンティック	関西電力株式会社京都支店	花豊造園株式会社
NPO法人マンションセンター京都	株式会社大林組京都営業所	京セラ株式会社	松下電器産業株式会社公共システム
大阪ガス株式会社	株式会社京都科学	京都駅ビル開発株式会社	営業本部関西支社京都営業所
大阪ガス株式会社京滋事業本部	株式会社京都放送	京都リサーチパーク株式会社	ローム株式会社
オムロン株式会社	株式会社三和総合研究所	清水建設株式会社京都営業所	
	株式会社 ジェイアール西日本伊勢丹	都市居住推進研究会	

『まちづくり交流』

「りょう ま竜馬通り商店街」

今回は、地域と密着した取組を進める中、新たに大学との連携により様々な取組を行っている「竜馬通り商店街」を紹介します。



竜馬通り商店街のはじまり

大きな酒蔵が点在する酒どころ伏見。納屋町通の油掛通から蓬萊橋にかけて「竜馬通り商店街」はあります。

もとは「南納屋町商店街」という任意の団体でした。しかし、伏見大手筋商店街や納屋町商店街が近くにあり、長さ約130メートルと小さな商店街であるため、このままでは埋没してしまうという危機感等から、平成6年、「竜馬通り商店街」と名称を変え、商店街振興組合として生まれ変わりました。

「竜馬通り」は、幕末の志士、坂本龍馬が定宿とした寺田屋が商店街のとなりにあること、その寺田屋で襲われた龍馬がこの商店街の通りを駆け抜け油掛地蔵まで逃げたという史実から名付けられました。今では龍馬の故郷高知との交流が盛んになり、高知の升形商店街と「友好提携盟約」を結んでいます。

まちづくりの目標

「竜馬通り商店街」では、「お年寄りにあったかいまちづくり」「地域と密着したまちづくり」を目標に様々な活動に取り組んでいます。

そこで、お年寄りの通りやすい道をつくろうと、道を石畳で舗装し、段差を無くすことから始めました。次に、石畳に合う町並みをと、店舗の外観を周辺の酒蔵と調和するよう焼杉と白壁風に統一しました。杉は高知特産の土佐杉を用いています。また、夏には地域の人たちに向けたプロの演奏家による無料の「夕涼みコンサート」、秋にはオープンパレードなどの「竜馬祭」を行っています。



夕涼みコンサート

まちづくり会社「龍馬館」

しかし、地域住民との関わりを大事にしていこうとすると、商店街振興組合という枠組みの中では、様々な制約があり活動の幅が狭くなります。

そこで、より幅広い活動を行うため、まちづくりを専門に行う会社を作ろうと、商店街の有志により、平成12年8月に有限会社「龍馬館」が設立されました。

「龍馬館」では、空き店舗を活用し、伏見の特産品や龍馬に関する商品の販売を行っています。

龍谷大学との交流

平成13年には、龍谷大学経済学部伊達ゼミの協力により、様々な取組が始まりました。まず商店街の通行量調査を行うとともに、通行者へのアンケートを行いました。これまでの取組の結果、6年前の調査と比べ通行量はずいぶん増えているそうです。このアンケートの結果は、地域とのつながりを深める商店街、観光客にも来てもらえる商店街を実現する基礎データとして活用する予定となっています。

また、学生が個別の商店を訪問して行うパソコン教室は、定期的な教室に通うことが難しい店主の方から喜ばれています。

学生は地元の方々から生きた商売を学び、地元の方々からは学生からパソコンなどの新しい知識と新たな風を受けられる良い関係が創られています。

これからの取組

「地域の中でどういう風に会話をすれば、あるいは交流の場を持てば、地域に根ざした、地域に貢献できる商店街になるかを考えています」と振興組合の南條良夫理事長。地域の方が憩う場としてのコミュニティホールの設置や、学生に場所を提供し、自己責任のもと、仕入れから販売までを体験することができる「チャレンジショップ」など、地域と共生する商店街を目指し、様々なアイデアが生まれています。

これからも、地域住民や地域の学校との交流により、地域の暮らしを支える商店街としての役割を發揮されることが期待されます。

まちづくり提案

寺にできることを見つめ直して **法然院の取組**

お寺は、歴史や伝統、文化を引き継ぐまちの「宝物」といえますが、ともすれば、法事や墓参り等の仏事以外の日々のくらしとの関わりが少ない一面もあることは否めないようです。

今回は、そんなお寺が果たすことの出来る役割や可能性を問い直し、京都ならではの様々な人とのパートナーシップを通じて多彩な活動を行っている法然院の取組を紹介します。



お話しをお伺いした梶田真章さん

法然院

法然院は、江戸時代初期、浄土宗の修行の場として開設されました。哲学の道の東側にある名刹めいさつであり、東山につながる11ヘクタールの広大な境内地は、「ムササビ」や鳥、虫などの様々な生き物が暮らす豊かな空間でもあります。



講堂での絵画の展示会

コンサートや展示会、シンポジウム

「1年間に、40～50回を数えるコンサートや、絵画や写真の個展等の展示会が開かれています。大学の先生や専門家を招いてのシンポジウム、勉強会なども行われています」と、梶田しんしょう真章さん(31代貫主)は、静かに、そして、丁寧に語られます。

コンサートは、室内音楽を愛好する団体や箏そうの演奏家、景観や環境問題について音楽を通じて考える人の集まりなど、様々な人や楽器、表現で取り組まれています。また、絵画や写真の個展等の展示会も、学生から有名なアーティストまで、幅広い方々の発信の場となっています。シンポジウムでは、梶田さんご自身がお話をされることもあります。さらに「森の教室」では、「法然院・森のセンター」を中心に、大学の先生や専門家を招いて、野外观察会や、押し花等の講座を開催しています。



森の教室の様子

寺を引き継いで

1985年、梶田さんは父親である橋本峰雄さんから「寺は開かれた共同体でなければならない」等の「想い」とともに、お寺を引き継がれました。

引き継いだ想いと、「寺という場を通じて人と人が出会ってほしい。また、様々な人や生き物、空間や時間と出会い、改めて自分たちの地域のまちのことや、自分の周りのものとの関わり方を考えるきっかけにつながってほしい」との自らの想いが重なり、幅広い取組につながりました。

「最初は、(17年前の)『森の教室』からでした。5年ぐらい続いた頃から、新聞等で紹介されるようになり、『法然院はお寺を皆さんに使ってもらっていいんですよ』という想いがたくさんの人に知られていったようで、『コンサートに使わせてもらえないでしょうか』という人が出てきました。『個展に使わせてほしい』という話や、『シンポジウムに使わせてほしい』という話にも広がりました。想いを持っている人と知り合い、色々と形にしていくうちに、人と人のつながりの中から広がっていったようです。法然院という歴史的な場を預かることとなり、建物を伝えていくことも大切だけれど、今、生きている人に意味のある場としたいと思っています。会場としてだけ貸すではありません。住職として私は、プロデューサーのように、色々な人とお寺をいっしょに活かしていくのが役割だと思っています。人が足りないときや、大変そうな時、梶田さんは、お手伝いもされるそうです。

お寺と市民との関わり

「寺のすべてが、法然院になる必要はないし、拝観や仏事を中心としたお寺も含め、それぞれの果たすべき役割をすれば良いんだと思います。でも、うちのようなお寺も、他にもあると思うんです。お寺も市民もお互いに遠慮しすぎのようです。思い切って近所のお寺にお願いに行かれば、すぐにとはいかなくともお応えするようなお寺もきっとあるように思うんです。」

様々な人々とのパートナーシップにより、お寺がその魅力を高め、京都の魅力の一つとして輝きを増していく、そんな広がりがますます期待できそうです。

私と京都



社団法人 京都府建設業協会会長
公成建設株式会社社長
絹川 治

いつまでも 魅力あるために

京都に生まれて丁度70年になる。遠隔地の工事現場にいた5年足らずを除けば、ずっと京都に住んでいる。随分長くなるナと思い起こすと京都の町も大分変わってしまったように感じる。

生まれてから烏丸一条で育った。京都御所の西側で知事官舎や府官舎のある環境のよい住宅街であった。当時の京都は夏は物凄く暑く、冬は底冷えのする寒さが厳しかった。北大路新町にあった師範附属小学校へ

は歩いて通っていた。寒稽古だったと思うが、全校生徒が殆んど素足で雪の船岡山まで走った記憶がある。北大路より北は農地が多く雪の量も多かった。四条、丸太町、今出川、北大路で気温も変り積雪量も変った。最近では見られない現象である。

結婚後暫くして烏丸一条から東山清水に移り住んだ。家業が建設業であったので大学も工学部土木学科を卒業した。東京オリンピック前後、日本の建設は治山・治水・国土の復興保全から、道路・鉄道・住宅・下水等産業基盤や生活基盤の整備へと進展していった。エキスポ70を目前に大阪ではどんどん道路・地下鉄・宅地・オフィスビルが建設されていたが、未舗装の道路が多く、工場公害による大気汚染と同時に道路の土埃で顔や鼻の中は毎日真黒になった。京阪電車で四条に夜帰り着いて、先づ第一は四条大橋の上から鴨川や東山を眺めながら深呼吸をすることであった。京都は住むのは良い所であるが高度成長期のチャンスを見逃してしまった。大阪も神戸も奈良も最近では大津も見違える程美しく元気になっている。

東山の山麓には数々の景勝地がある。四季のうつろいに従い姿を変え、一年中何時も美しいのが嬉しい。また見る場所によっても全く趣きを変えるのも、京都を一層奥深くしてい

る。学生時代、吉田山の上から大文字を見たことがあった。「燃えて身を焼く大文字」の詩通りメラメラと燃える真赤な炎の激しさは、長年御所から見ていた美しく整った物静かな大文字とは全く異質のものであった。大原や嵯峨野にも折々の季節の顔がある。京都に住む人々にとっても、また時折訪ねてくる観光客にとっても限りない魅力である。

しかし、文化遺産とか景勝地という立場でなく、活力ある都市としてはどうなのか。人が集まり生きる営みを積み重ね、文化を形づくってゆく、都市は生きものなのである。常に手を加え、豊かで活力ある環境を与え続けなければ人は集まらない。だんだんと淋しくなる。最近、市中心部の住人が少し増えてきたように思うけれども、どうも私達京都の住人は都市の整備に対する努力が少ない、過去と自然に甘え過ぎているように思えてならない。

私は京都が大好きである。京都らしさ、京都の風習も好きである。物柔らかな間接的表現も奥ゆかしい。物事へのこだわりの強さも京都の質や品格を高めている、が残念ながら本当の京都らしさの似合う人が少なくなってしまった。時は移り生活も変わる、人も変わる、好きな京都も今のままでは魅力を失ってしまうかもしれない。

《センター解説アワー》

スポーツとまちづくり

従来、スポーツというと、競技スポーツのイメージが強く、特定の人のものと捉えがちでした。しかし、余暇の時間が増え、長寿社会を迎えた今、それぞれの事情や好みに合わせてスポーツを日常的に楽しみ、そのことを通じて人生を豊かに過ごそうという「生涯スポーツ」の考え方が広まり、スポーツは以前にも増して誰もが楽しめるものとなりました。

私たちはスポーツを楽しむ中で、技術を習得するだけでなく、他者との交わりを通じて、自然とルールを覚え、社会性を身に付けています。楽しいことには自ずと積極的になり、自発的、主体的にスポーツに取り組むようになります。自らが主体的に取り組むうちに、創造性や状況に即して柔軟に対応できる力が経験の中で高まります。

競技する、観戦する、育成する、参加する。スポーツには

多様な楽しみ方があります。一つのスポーツ活動に、人それぞれの楽しみ方で関わることによって、自然と世代を越えた新しい人間関係が形成され、より幅広いコミュニティの醸成が期待できます。

このように、人を育てると同時に、関わる人々の関係性を高めるなど、スポーツには、人づくりの効用があるようです。

京都では、半世紀以上も前から、各地域(元学区)で体育振興会を結成し、活発な活動を展開しています。学校施設が活動拠点になるなど、市民の主体的なスポーツ活動が地域に根付いています。こういった素地からも、スポーツによって地域を単位とした人づくり、まちづくりが展開されていく可能性に期待できるのではないのでしょうか。

センター語録

この春から小学校での総合学習が本格的に始まります。これまでも「まちづくり」を扱う学校は数多く見受けられましたが、最近では修学旅行のテーマが「京都のまちづくり」という学校も現れています。

2月17日の「第1回 京都まちづくり交流博」には、これまでセンターとはあまり交流の無かった方々も含め、多数の発信者に応募していただくことができました。用意した会場の収容力を超えたため、必ずしも良好とはいえない状況でのパネル展示となりましたが、多くの新しい出会いが生まれ、交流していただけたのではないのでしょうか。

ニュースレターの創刊号の表紙を飾った「芽生えていますまちづくり」は、12号の「広がっていますまちづくり」を経て、今号では「出会い」「交流」から広がるパートナーシップ

によるまちづくり」となりました。センターが設立されて4年半という短い期間ですが、この間の京都のまちの変化を物語っているように思います。

目に見える町並み景観の変化に加えて、そうした町の中に繰り広げられている「まちづくり」という内面の変化にも、注目していくことが大切だと考えています。また、「センターにアクセスすれば様々なまちづくりの情報が得られる」と言っていただけのように、センターも情報の発信力を高め、新たなパートナーの発見、交流に努めたいと思います。まずは、新しくなったホームページにご注目ください。

(まちづくりセンター事務局 T.N)



センターからのお知らせ

賛助会員の募集 (平成14年度分)

平成14年度の賛助会員を募集しています。

京都のまちづくりに貢献したい！センターの活動を応援したい！そんなあなたの熱意をお待ちしています。

[特典]

- ・ニュースレター(年4回・季刊)の送付
- ・冊子等センター発行物の割引
- ・ニュースレターでの活動紹介
- ・シンポジウム、セミナー等への優待

[年会会費]

個人1口：5千円 団体1口：5万円

まちづくりフレンズの募集

地域のまちづくりに関する各種イベントや啓発・学習活動にボランティア・スタッフとして参加していただける方を募集・登録しています。

京まち工房 ホームページが新しくなりました

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kyoto-ws/>

センターのホームページは、取組内容やまちづくりに関する様々な情報がより充実して新しくなりました。ぜひ一度ご覧ください。皆さんからのまちづくり情報もお待ちしています。

(財)京都市景観・まちづくりセンター

〒604-0846 京都市中京区両替町通押小路下る金吹町452
(元京都市立龍池小学校内1階南側)

TEL 075-212-4031
し えん さんかひとづくり
(支援・参加・人づくり)

FAX 075-212-4047

e-mail : kyoto-ws@mbox.kyoto-inet.or.jp

相談の受付等

月～金(祝日を除く)の9:00～17:00
来所される場合はなるべく事前にお電話ください。
なお、駐車場はありませんので地下鉄等をご利用ください。

